

環境計測研究分野(総合)

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
○NIES および他機関における環境研究に不可欠な環境計測・分析のための先端技術の開発、高感度化、迅速化などに大きく貢献してきた。[事後]
○活発に研究が進み、また、他分野との連携が具体的になってきている。[年度]
今後への期待など
○国立環境研究所には不可欠の研究センターとして、今後も新技術の開発に取り組んでいただきたい。[事後]
○開発した分析法の実試料による検証が進んだと考えます。今後は、企業、大学、地方環境研究所と連携して、実用化を推進して頂きたい。[年度]
○環境計測法の開発は継続的に発展して頂きたい。そのためには、国内外の大学、研究機関との連携も大いに必要だと思うが、あまり積極的にされていないのではないか [事後]

主要意見に対する国環研の考え方
①本中期研究期間中に、ニーズの把握と分野連携の重要性について多くの指摘を頂きました。そのご指摘を受け、具体的なニーズ・潜在的なニーズの把握に努め、開発のターゲットの明確化やクリアすべき課題の優先順位付け等の工夫をしつつ、計測技術の開発や応用範囲の拡大を行ってきました。今後とも連携強化を図りつつ、環境計測技術開発やその応用に取り組んでいきたいと考えております。
②国内外の研究機関や企業との連携は勿論のこと、現場を抱える地方環境研究所との連携も充分に行って、計測手法の実用化や技術移転などを視野に入れた取り組みを推進したいと考えております。
③所内の分野連携のほか、外部競争的資金研究をはじめとした共同研究の形で国内外の大学や研究機関とも協力して調査・研究を進め、積極的な成果の公表にも努めてきました。一方で、当該研究分野において国環研が主体となり、計測手法の開発や活用に関しての目的意識の共有を図り、それぞれの機関・グループが明確な役割分担を担う形での戦略的な連携の中で、成果に結びついている事例は、いくつかの例を除くと必ずしも充分とは言えないことから、今後はより積極的な連携の推進を図っていきたいと考えております。